

## ・配架について

本校の図書館に入ると、「本が目飛び込んでくる」という感想をよくいただきます。

一般書架でのフェイスアウトや、資料関連の資料展示(新聞記事など)が多いことがその理由だと思えます。

ひとつの棚の端に1冊フェイスアウトする展示や、ゴールデンラインにフェイスアウトのリボン配架をしている例も多いですが、本校の場合は、背差陳列の前に資料をフェイスアウトする方法を行っています。

同じ内容の「もの」ならば雑誌も一般図書も、文庫も新書も、棚に混在し、ひとつの棚に数冊フェイスアウトする手法も含め、松岡正剛が昔手がけた「松丸本舗」と似ているのかな、と思います。

松丸ぐるぐる 2.0

<http://storage.panoplaza.com/publish/ba974596-ff25-43b5-8bf5-5029b5810127/index.html>

書架の前面に合わせてずっと本が並ぶ棚は均一化して、本が好きな生徒以外には「壁」のように見えてしまいます。それよりは、一部奥にひっこんでいたりと、横に置いてあったり、フェイスアウトをしてあったりと、「でこぼこ」がある棚のほうが、本の魅力を伝えやすいように私は考えています。

フェイスアウト本を背差の前に置くことで、後ろの資料が見えなくなってしまうことがありますが、この本の奥には何があるのだろう、と能動的に「探る」仕掛けがあってもいいのでは、という思いです。

## ・サイン表示と分類について

図書館用語ではなく、生徒がこのサインを見てどのような資料が並んでいるか「わかる」言葉を見出しとして選びだし、作成しています。

- ・0番台は「情報・メディア」
- ・210～219は歴史・地理を含め「日本を知る」
- ・200～279(210～219を除く)は「世界を知る」
- ・280は日本論と異文化
- ・38番台は「ファンタジー」
- ・500～589は「テクノロジー」
- ・59番台は「くらし」
- ・767～779は「エンタメ」

など

「古典」はシリーズごとではなく、「源氏物語」など作品ごとに並ぶように908、910.8、918という分類はとらないようにしています。また教科書などで扱われることのほとんどない全集のなかの一部の作品は書庫に入れるようにして、棚が「壁」にならないようにしています。

また学校では、「進路」と「こころ」の棚の充実が求められていると考えています。

「仕事」は366に入れるとシリーズごとに並んでしまうので、600番台に「職種」ごとに並ぶように、

総務省の「日本標準産業分類一覧表」を参考に独自の分類をつけ、細かく差し込み見出しをつけました。発行年度も大事な情報なので、図書記号はとらず代わりに発行年度を記入しています。(発行年度は「進路」以外の資料にもいれています)

「こころ」は14番台に「利用の流れ」を考えながら欠番を活用しつつ分類を新たに考えました。

141の人間関係に関する悩みが、146で解決されたあと、147のオカルトや148の占いにつながる「流れ」は生徒の問題解決とは違うように思えてならないのです。

143～144は生徒中心の人間関係・学校生活・依存などの様々な「悩み」を並べ、145～149を「癒し」として、カウンセリングや自己肯定感、名言などで回復の手助けができるような棚づくりを目指しました。

「探究」については、ブックトラックを「レポート対策」のコーナーとして図書館の中心に置き、007番台に「図書館の使い方」「書き方」「話し方」「まとめ方」「プレゼン」「情報リテラシー」の資料を置きました。学年ごとの調べ学習の進み具合によって、参考文献の書き方や、調べるコツ、などを教室などで話すこともあります。

ただ、私は図書館の「探究」活動への支援とは、生活の中で「知りたい」「読みたい」に応えること、また好奇心を刺激し、そうした能動的に行動につなげることがまず大事だと考えています。

鶴見高校の図書館に入ると、机がほとんど目立ちません。いろいろな場所に4人から1人席がいろいろな向きで配置してあって、これでは図書館で調べ学習はできない、と思う方もいると思います。しかし、4人グループで10個のスペースを作り出すことは可能です。

それが常設ではないのは、普段づかいで個別に、多様で最適な使い方(個人でも、集団でも)ができる方を優先しているからなのです。

昼休みには、資料を利用したり、自習したりする以外に、グループでお弁当を食べにくる生徒や、カウンターテーブルで個々に静かに食べている生徒、隠し部屋のようなところにひっそりと過ごしたりしている生徒もいます。解放している書庫ではオンラインで授業を受ける生徒、教室に行けない生徒の利用もあります。

図書館では、それぞれが最適な向きと環境(個人・グループなど)で、自らの問いや課題の「探究」をしていくところだと思います。

一斉指示をするなら、全員が同じ方向を向くようにできていて、密度も高く指示がとおりやすい「教室」でやったほうが効果的です。私は図書館オリエンテーションも「知ってほしいこと」「伝えたいこと」は教室で行っています。

授業で図書館に行くと、様々な資料が目飛び込んできて、気になって仕方がない、一斉指示がなかなか通らない、という図書館が実は私の理想です。

そしてそういう様々な情報の量にひるまず、自分の必要な資料を手に入れ・考え・共有することができる生徒になってほしいと願っているのです。